

新たな志摩市総合計画策定に係る高校生ワークショップ

結果報告書

令和7年 5月
志摩市 政策推進部 総合政策課



はじめに

■ ワークショップの目的

志摩市のこれからのまちづくりの方向性を定める「新たな志摩市総合計画」の策定に向け、まちの将来を担う市内の県立高校の高校生の皆さんから意見を伺い、若者の視点による問題や取り組むべき課題、目指す方向性を把握するために、ワークショップを開催しました。

高校生の皆さんが想像しやすい「10年後」の未来(20代半ばの自分)をイメージしてもらい、「若い人が住み続けたい、また戻ってきたいと思える、10年後の理想の志摩市」、そして、「10年先に、そんな理想の志摩市を実現するために、何をすればいいか(どんな変化を加えればよいか)」というテーマについて話し合いました。



志摩高校での様子

■ ワークショップの手法

本ワークショップは、「新たな志摩市総合計画」策定のため、市内県立高校(志摩高校・水産高校)の高校生を対象に令和7年3月12日及び13日に実施しました。

各校で約2時間、生徒会メンバー(5~7人)の協力をいただき、グループ討議形式で行いました。

「志摩市の良いところ」「10年後の理想の志摩市」「実現に必要な取組」の3テーマを設定し、各テーマでは、まず個人で意見を付箋に書き出し、グループ内で発表・共有しました。出された意見を関連性でグループ化し、見出しをつけて整理・集約する手法を用いました。

実施にあたっては、参加者が自由に意見を出し合える雰囲気づくりに努めました。



水産高校での様子

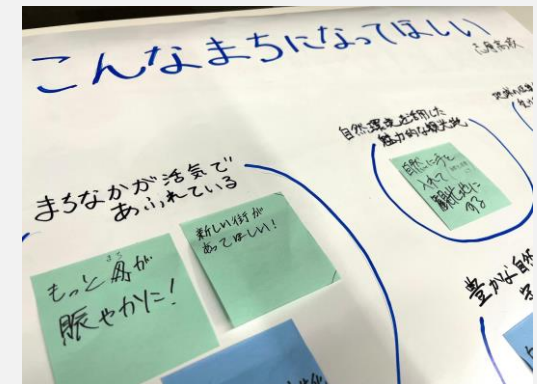
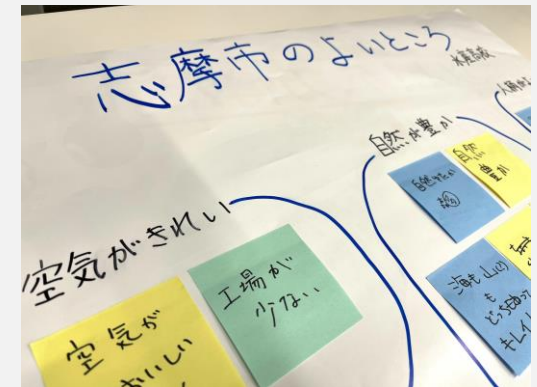
ワークショップの全体像

- 若い人が住み続けたい、また戻ってきたいと思える、10年後の理想の志摩市
- 10年先に、そんな理想の志摩市を実現するために、何をすればいいか(どんな変化を加えればよいか)

今回のワークショップでは、上記の検討を目的として設定したうえで、次の3つのテーマについてグループ討議を行いました。

志摩市の良いところ

- 志摩市の良いところとして、「自然環境」、「食」、「伝統・文化」、「市民の人柄の良さ」、「観光地」に関する事など、様々な意見が出されました。
- 両校の生徒が共通して最も価値を置いているのは、志摩市の「豊かな自然環境」(美しいリアス海岸の海、きれいな空気、身近な緑など)と、新鮮な海産物を中心とした「おいしい食」でした。これらは、市外にも誇れる地域固有の資源であり、市民のアイデンティティとなる大切なものであることを確認しました。
- 加えて、地域住民の「人柄の良さ」(あいさつを交わす文化、親しみやすさ、優しさ)も、日々の生活の中で実感する重要な魅力として挙げられました。
- また、「志摩スペイン村」も自慢のコンテンツとして挙げられました。



10年後の志摩市の姿 (住み続けたい、また戻ってきたいと思える理想のまちの姿)

- 10年後の理想の姿として、「若者が楽しめる場所が多い」、「子育てしやすい環境が整っている」、「豊かな自然環境が守られている」といった意見が出され、具体的には、「もっとまちなかを賑やかに、新しいお店を増やしたい」、「子どもが外で遊べる場所や公園を増やしてほしい」、「自然環境をきれいなまま大切にしたい」など、様々な意見が出されました。
- 特に強く求められたのは、現状で不足していると感じられている若者向けの店舗や娯楽施設の拡充による、まちなかの「賑わい」創出でした。これは、日常的な楽しみや交流の場を市内に求める切実な声であり、市外への魅力流出を防ぐ鍵となるものとして、具体的な意見が多くありました。
- 同時に、公共交通(特にバス路線や便数)の改善による移動の「利便性」向上も、暮らしやすさを実現する上で不可欠な要素と示されました。
- さらに、市の強みである自然、食、文化、地域産業(漁業、真珠、あおさ等)を将来にわたり保全・継承しつつ、これらを観光振興や新たな雇用創出へと積極的に「活用」していくことへの期待も大きく、単なる経済的利益追求ではなく、地域の独自性を保ちながら持続可能な発展を目指す姿勢がうかがえました。

10年後のまちの姿の実現に向けて必要な取組

- 理想の実現に向けては、「SNSを活用した志摩市のPR強化」、「バスの本数を増やすなど公共交通の充実」、「地域資源のさらなる活用」、「若い人が働ける場所を増やす」などの具体的な施策が多く提案されました。
- 特に重要とされたのは、若年層が日常的に利用するSNSなどを効果的に用いた「情報発信の強化」でした。市内外の人たちに、志摩市の魅力をもっと広く発信して伝える必要があるとの意見が多数出ました。
- また、将来の定住を見据え、雇用の場の創出、経済的支援や、子育てしやすい環境整備、多様な学びの機会提供といった「若者・子育て世代への支援拡充」のほか、日々の移動を支える「公共交通の充実」が不可欠であるとの意見も多数ありました。
- 自然環境の保全活動や地域産業の育成の必要性も指摘されました。
- 計画策定やまちづくりのプロセスへの「市民(特に若者)の意見を聴く機会」を設け、多様な主体が協働していくことへの期待が示されました。

全体まとめ

今回の高校生ワークショップの結果について、新たな総合計画策定の観点から、主なポイントを以下の4点に整理しました。

1. 地域固有の魅力「自然・食・人」の再認識と重点的保護・活用

・高校生が共通して志摩市の大きな魅力として挙げた「豊かな自然環境(特に海)」、「おいしい食(特に海産物)」、そして「地域の人々の人柄の良さ」は、地域資源の核として考えられます。これらの恵まれた資源を次世代に継承するための環境保全策等を強化するとともに、これらを活用した持続可能な観光振興や地域産業(特に一次産業の高度化やブランド化)の育成戦略を具体的に盛り込むことが求められています。

2. 若者が求める「賑わい」と「利便性」への対応と定住促進

・10年後の理想像として強く求められた「若者が楽しめる店舗・娯楽施設の充実」や「まちなかの賑わい創出」は、若年層の市外流出を防ぎ、Uターンを促進するための重要な課題です。そのために、まちなか整備、空き店舗対策、起業支援などを通じた魅力的な商業環境の整備、若者の交流・活動拠点の創設などが必要と考えられます。また、「公共交通の利便性向上」(特にバス路線の拡充や運賃支援)は、日常生活の質を高め、若者だけでなく全世代の暮らしやすさに直結する重要な施策として考えられています。

3. 持続可能な産業振興と多様な雇用機会の創出

・「地域資源を活かした仕事」や「若者が働ける場所を増やす」という意見は、産業振興と雇用創出が若者の定住にとって不可欠であることを示しています。既存の基幹産業(漁業、観光等)の持続可能性を高める支援策に加え、自然や文化を活かした新たな産業分野(体験型ツーリズム、環境ビジネス、ITを活用した地域ビジネス等)の育成、若者の起業支援、市内企業とのマッチング強化などを通じて、多様な働き方の選択肢を提示することが期待されています。

4. 若者の参画と共感を呼ぶまちづくりの推進

・「SNSを活用した情報発信強化」や「若者の意見を聴く機会の創設・拡充」を求める声は、行政と若者世代とのコミュニケーションの重要性を示しています。まちづくりのプロセスに若者が参画できる仕組みを導入し、彼らのアイデアや意見を継続的に反映させることなども考えられます。また、子育て支援の拡充や学びの環境整備といった提案も、若い世代が将来に希望を持ち、安心して暮らせるまちづくりへの期待の表れであり、重要な施策の一つとして考えられます。

志摩高校ワークショップ

令和7年3月12日(水)13:00~15:00

志摩高校のワークショップまとめ①

志摩市の良いところ

自然が豊か

- 自然が身近にある
- 海がきれい自然が豊か
- 環境に優しい
- 静かで落ち着いている
- 伊勢志摩国立公園に指定されている
- 野生動物がいっぱいいる

人柄がよい

- 地域の人と仲が良い
- 人が優しい
- 人とすぐに仲良くなることができる
- 人がみんな元気
- すれ違うとあいさつしてくれる
- みんな仲良くしている

伝統的な祭りがたくさんある

- 祭りが多い
- 伝統的なものがいっぱいある

海が楽しめる

- 海に面している
- 海が身近にある
- 美しい英虞湾がある
- サーフィンができる海がある
- 海がきれい

食べ物がおいしい

- 海産物が豊か
- 新鮮な海の幸がある
- 海産物がおいしい
- 食べ物がおいしい

真珠養殖の発祥地

- 真珠

気候がよい

- 気候がちょうどいい
- 暖かい
- 台風が全然こない

スペイン村をはじめ観光地がたくさんある

- 観光地が多い
- 志摩スペイン村がある

その他

- 志摩高校

志摩高校のワークショップまとめ②

10年後の志摩市の姿(住み続けたい、また戻ってきたいと思える理想のまちの姿)

まちなかが活気であふれている

- もっとまちがにぎやかになっている
- 地域が活性化している
- 新しい街があってほしい

自然環境を活用した魅力的な観光地

- 自然を手を入れて観光地にする

地域の伝統文化(産業)が受け継ぎ守られている

- 地域の伝統と文化が守られる

若い人が行きたい店がある

- 有名なお店があってほしい
- サイゼリヤ
- スターバックスコーヒー
- アウトレット
- 服屋

豊かな自然環境が守られている

- 自然と環境が守られている
- 森や海などきれいなまま大切にしたい
- 環境破壊をしない

若い人がずっと働ける仕事がある

- 働ける場所を増やす

豊かな田舎

+暮らしやすさ

子ども・若い人が遊べる場所がある

- 子どもが外で遊べるような場所をつくる
- 遊ぶ場所がほしい
- ラウンドワン
- 映画館
- プリ機(プリントシール機)

その他

- 今ある店を壊さない
- バイクの騒音をなくす

生活基盤が充実している

- 交通が便利になる
- 近場にスーパーをつくる
- 病院を増やす

志摩高校のワークショップまとめ③

10年後のまちの姿の実現に向けて必要な取組

フェスなどの大規模イベントの開催

- 大きなイベントをして注目を集める
- イベントを開催する

地域資源のさらなる活用

- 真珠養殖をブランド化する
- 地域資源の活用
- 便利で志摩唯一の場所をつくる
- コラボする(あるものと話題のものを組み合わせる)
- 豊かな自然を観覧できる観覧車をつくる
- 釣りスポット

漁業をはじめとした地域産業の育成・支援

- 若手漁師・海女の育成
- 地元産業の支援

持続可能な観光地の整備

- 持続可能な観光の推進
- 交通インフラの整備

SNSを活用した志摩市PRの強化

- SNSを活用した宣伝
- SNSを利用して志摩市のことについて宣伝する
- SNSを使って志摩市のアピールする
- 志摩の魅力をネットで拡散する
- なばなの里のようなCMを出す

子どもの遊び場所の確保

- 外で子どもが遊んでも文句を言われないような場所をつくる

自然環境の保全・保護

- 海と森の清掃活動
- ポイ捨てをしない
- 太陽光パネルを設置しすぎない
- 木を切らない

協働によるまちづくりの推進

- 市役所の人、学生、地域の人が連携する
- 周囲の人たちの意見を聞くなどしてそれを広報する
- 積極的に自分から取り組むようにする
- 地域コミュニティの活性化

水産高校ワークショップ

令和7年3月13日(木)13:00~15:00

水産高校のワークショップまとめ①

志摩市の良いところ

自然が豊か

- 自然が豊か、森が多い
- 海も山もどちらもあってきれい
- 身近に海があってすぐに泳げる
- 雰囲気が落ち着く
- 海が青くてすごくきれい、いっぱいある
- 砂浜がきれい
- 景色がきれい
- リアス海岸がきれい
- 横山展望台
- 大王埼灯台がきれい
- パールブリッジがきれい

空気がきれい

- 空気がおいしい、きれい
- 工場が少ない

サーフィンが楽しめる

- サーフィンが人気

人柄がよい

- みんなフレンドリー
- 気前のいい人ばかり
- 若者が元気
- ノリがいい

食べ物がおいしい

- 魚が新鮮でおいしい
- あおさが日本一
- 魚、貝、あおさ、海の食べ物がおいしい
- おいしい定食屋さんがある
- きんこいもがおいしい

釣りが楽しめる

- 釣りスポットが多い
- 釣りができる
- 釣り人が多い

楽しいテーマパークがある

- 志摩スペイン村が楽しい

伝統的な祭りがたくさんある

- 伝統的な祭りが多くある
- 楽しいお祭りある
- 行事がたくさんある

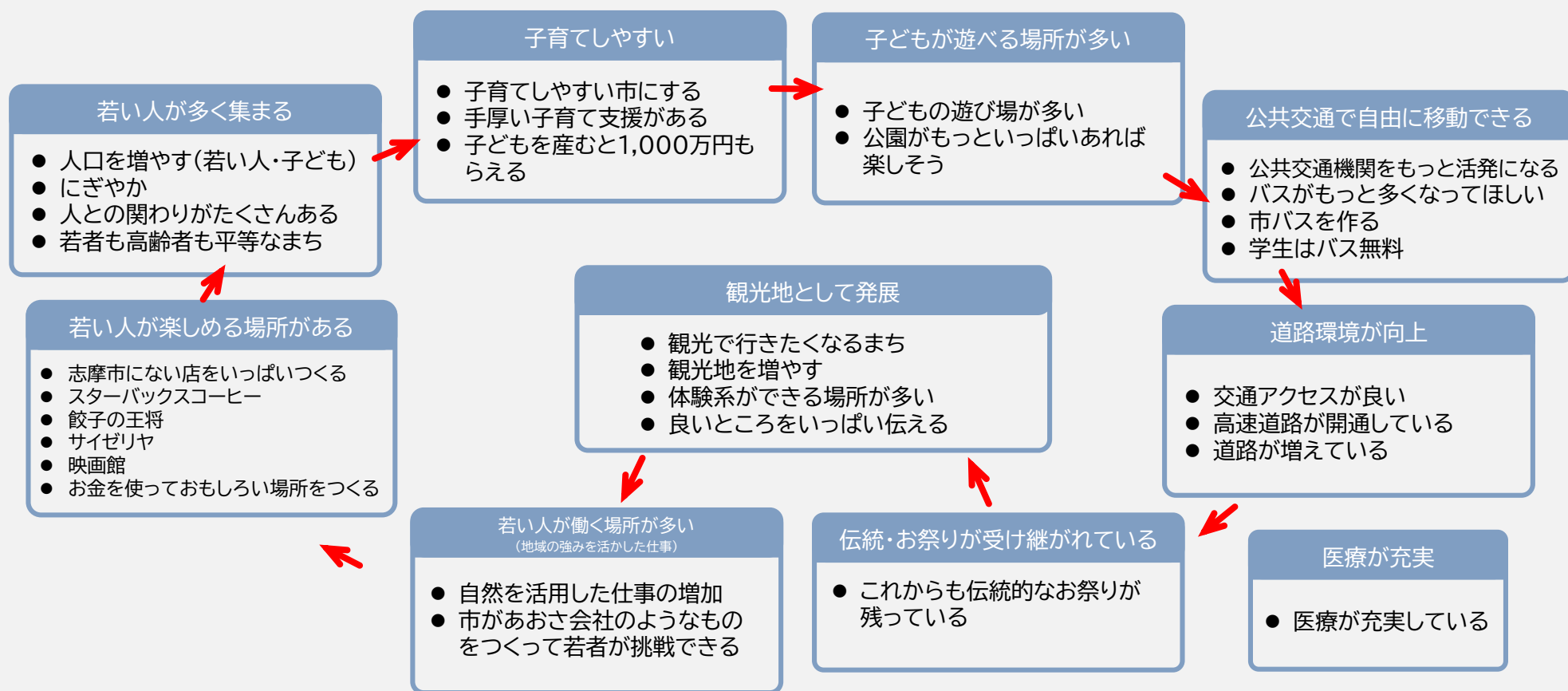
その他

- 水産高校がある
- 給食費が無料
- あおサ〜がかわいい

水産高校のワークショップまとめ②

10年後の志摩市の姿(住み続けたい、また戻ってきたいと思える理想のまちの姿)

若い人が住みやすいまち



好循環が生まれるまち

水産高校のワークショップまとめ③

10年後のまちの姿の実現に向けて必要な取組

若者・子育て世代への支援拡充

- 全体的に値段を安くして市が補助する
- お金の支援(税の軽減)を「高齢者＞若者」ではなく、「高齢者＝若者」にする
- 税金は上げずに給付金を増やす
- やっぱりここで子どもを育てたいと思えるように手厚く支える
- 市内の高校に通う学生はバス無料
- バス、電車の定期代支援
- 水産高校に寮をつくる

志摩市の魅力を情報発信

- SNSで情報発信
- SNSで志摩の魅力を伝える
- SNSを活用
- 志摩市をもっと知ってもらう
- 市勢要覧が見にくいので、もっとわかりやすくして良さを伝える

自然や文化を守り続ける

- 自然・文化を守り続ける
- 志摩市自体が目的をしっかりと決めて、矛盾がないように一貫したまちづくりをする

市民を中心としたまちづくり

- 市民の声を聴く
- 意見交流
- 今回のワークショップのように高校生など若い人の意見を聴く
- 大人のワークショップを行う
- SDGsなど、一部での取組ではなく、まち全体で取り組む

公共交通の充実

- バスの本数を増やしたり、ルートを変えたり、三重交通に相談する

道路整備の促進

- 国への要望など、道路のことを話し合う

まちなか整備の推進

- 街中にお店をつくることできるよう、スペースを確保する

ふるさと納税を活用するなど特産物の販売促進

- ふるさと納税を活用して特産物をもっと売り込む

その他

- 他の県と情報を交換して参考にする
- 志摩高校と水産高校の合体